

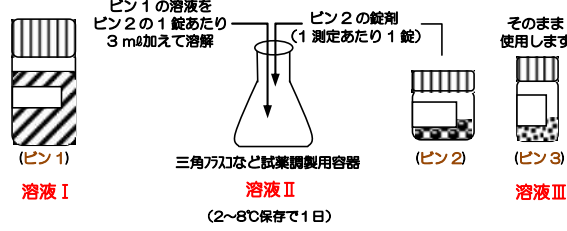
F-キット エタノール(Gat.No.176290)の定量操作方法(フローチャート)

【操作簡略図】

【参考写真】

[1] 試薬の調製

- ・メスリンダーまたはガラスピペットを用いて**ピン1の溶液**を試薬調製用容器に**ピン2の錠剤**1錠あたり**3mL**の割合で加えます。
- ・**ピン2の錠剤**をキット付属のピンセットで取って試薬調製用容器に入れ、泡立てないよう穏やかに溶解します。
試薬が安定するまで**約15分間**静置します。
- ・**ピン3**の酵素懸濁液が均一になるように診をしたまま倒してローリング(振盪)します。



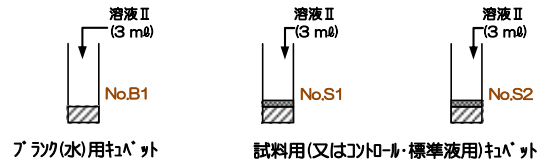
試薬の調製



[2] 試薬および試料のピペティングと吸光度測定操作

ステップ1:

- ・各キュベット(セル)に各**3 mL**の**溶液Ⅱ**を加えます。

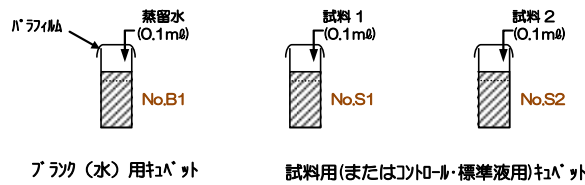


ステップ2:

- ・試料または**ブランク用水**各**0.1 mL**をキュベット内の溶液(溶液Ⅱ)の水面下に流し入れます。

※ピペッターのチップ先端が外気に触れないようにしてください。

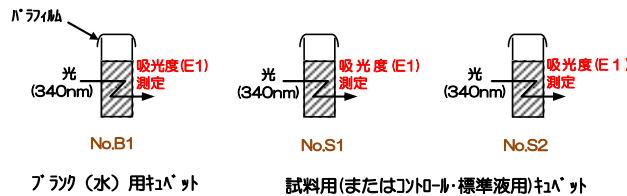
- ・パラフィルム等で各キュベットを密封し、泡立てないよう2~3回穏やかに転倒混和します。



ステップ3:

- ・混和して**約3分間**静置した後、分光光度計(波長 340 nm)で各キュベットの**吸光度(E1)**を測定します。

……**酵素反応前の試料やブランクを測定**



ステップ3、ステップ5



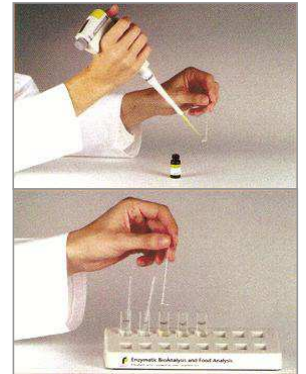
ステップ4:

- ・パラフィルムを少し開けて、**溶液Ⅲ**(ピン3)**0.05 mL**を加えます。(または各キュベット毎に攪拌棒(別売品)を準備し、**溶液Ⅲ**(ピン3)**0.05 mL**を攪拌棒先端(へら部分)にのせて各キュベット内に入れ攪拌します。

泡立てないよう2~3回穏やかに転倒混和します。)



ステップ4



(注) 溶液Ⅲは0.05 mLより多く加えないで下さい。溶液Ⅲをバラツキなく正確に加えることが精度上重要です。

ステップ5:

- ・混和して20℃以下(室温)に**約10分間**静置した後、再び**吸光度(E2)**を測定します。

……**酵素反応後に生成したNADHを測定**

